

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	③-42	実施計画番号		事業開始年度	平成27年度
事務事業名	十和田地区環境整備事務組合の運営のあり方の検討			事業終了年度	平成31年度
担当課名	下水道課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	十和田地区環境整備事務組合のし尿・浄化槽汚泥処理施設の老朽化による大規模な修繕・更新時期にあたり、十和田下水処理場の余剰能力での受入可能かの検討を行う。				
事務事業の目的	十和田下水処理場でのし尿・浄化槽汚泥の受入により処理コストの削減並びに構成市町村の負担金の削減。				
実施状況	平成27年度目標は、し尿・浄化槽受入調査・計画業務を委託し、その結果を踏まえた十和田下水処理場整備計画を策定することとしていたが、十和田地区環境整備事務組合が構成市町村との合意形成に時間を要したため、調査・計画業務委託は平成28年度に行うこととした。今年度は十和田地区環境整備事務組合との数回の打合せ及び事業実施の事前調査等を実施し、平成28年度に業務委託を実施するための予算要求を行った。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)		2	2
	活動日数(日)		10	60
	人件費(千円)	0	720	4,320
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
パートタイマー	人件費(千円)	0	0	0

【事業費の推移】

	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)	0	0	19,937

【指標】

活動指標	活動指標名①		し尿・浄化槽汚泥の十和田下水処理場への受入検討			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
					環境整備事務組合構成市町村合意形成のため事務打合せの実施	整備計画の策定
	活動指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
成果指標	成果指標名①		し尿・浄化槽汚泥の十和田下水処理場への受入検討			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			目標値		構成市町村の合意形成	整備計画の策定
			実績値		構成市町村の合意形成なされた	
			達成度(%)		100%	
	成果指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由		
妥当性	①	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地	0 / 4
	②	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
有効性	③	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地	0 / 6
	④	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		平成27年度は、十和田地区環境整備事務組合が構成市町村の合意形成をするための事務打合せを行った。	
	⑤	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
効率性	⑥	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地	0 / 6
	⑦	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
	⑧	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
公平性	⑨	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地	0 / 4
	⑩	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
現在の適性					20 / 20	改善の余地		0 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要 ⇒

現状のまま継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

平成27年度は、十和田地区環境整備事務組合が構成市町村の合意形成を実施しており、平成28年度に十和田下水処理場し尿・浄化槽汚泥受入整備計画の策定を実施する。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

し尿・浄化槽汚泥の受入れ調査・計画業務委託を実施し、十和田地区環境整備事務組合との打合せ及び調整等を行いながら事業実施を目指す。